

団体名：内藤 定芳

24A-29

代表者：

URL：

1. 活動が必要とされた状況

特定外来生物は、動物については、一定の恐怖心や危機感があることが多く、駆除や防除の方策が取られているが、植物については、直接的な被害への認識が困難である。今回のように、市民活動から市当局まで変え続けた活動は、他の団体への啓発で有効だと思う。

オオキンケイギクについては、指定直後から関心を持ち続けてきた。14年前には市長への手紙を書いて、羊山での除草活動に動いてもらった。個人から団体へ、そして秩父環境市民会議から市民活動へと、着実な動きが続けられている。

オオキンケイギクの繁殖活動については、10数年来調査してきた。市内全域はほぼ状況把握しているが、近隣市町村及び県内、県外各地でも殆ど自覚されないまま放置されている。近県を含め、近隣市町村だけでも駆除した方が良いと考え、現在に至っている。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

オオキンケイギクの除草を進めるため、全県の自治体に配付することを目指して、「特定外来生物『オオキンケイギク』除草作業の啓発DVD」を制作した。

3. 活動の成果

近年は、秩父市環境市民会議が6月に実施する「影森グラウンド」周辺での除草活動がメインになっている。

90%以上駆除したと思っているが、一部国立公園や県立自然公園内でも繁殖が始まっており、個人的に見回りを続けている。決して終わることはない。



4. 今後に残された課題

植物の特定外来種は静かに確実に侵食している。6月頃は黄色の鮮やかな花が少ない。知らないで切り花で他人に渡したりタネを取って譲渡したりする。このことが問題になったら、知らせてこなかった行政の不作為が問われることになる。防がなければならない。

